



1週間はどうして月・火・水・木……なの

神が働いた6日間と休日で1週間

暦こほみというのは、農作業のうさぎょうで種たねをまく日ひとか、教会きょうかいで行事ぎょうじがある日ひが示しめされており、宗教しゅうきょうの影響えいきょうを強く受けていました。1週間という考え方も、ユダヤ教きょうからきています。神かみは6日間かんかけて、天てんと地ちとさまざまな形かたちのあるものばんしやう（万象つく）を作つくられました。それが完成かんせいしたので、その第7日だいを休やすんで祝いわわれました。この7日間かかんを、1週間しゅうかんとしたのです。3000～4000年前ねんまえから、ローマ暦れきの中で週なかつという単位たんいができ、日曜日にちようびは休日きゅうじつとなりました。

占星術による星の順序が、曜日の順序に

さて、7日間の各曜日かかんの順序かくようびは、占星術せんせいじゆつによって惑星わくせいの名前なまえがつけられました。火星かせい・水星すいせい・木星もくせい・金星きんせい・土星どせい・それに月つきと太陽たいようを前後ぜんごに加えて月曜日げつようび、日曜日にちようびとしたのです。ただし、ユダヤ教きょうでは安息日あんそくびとして、土曜日どようびを休日きゅうじつにしましたが、キリスト教きょうでは日曜日にちようびを休やすむようになりました。日本にほんでは、約130年前やくの文部省令ねんまえによって、学校教育ぶんぶしょうれいでは日曜日がっこうきょういくを休日にちとしています。（監修・保岡 孝之）

